

にこにこ通信

〈発行〉名古屋芸術大学 人間発達研究所

大学のキャンパスに幼な子の姿が

— 「にこにこワークショップ」の意義を考える—

人間発達研究所運営委員長 金田 利子

あるお母さんが尋ねました。「どうして、名芸では、こんなに一生懸命、子育ての場を無料で開いてくださるのですか?」と。とてもうれしいご質問でした。

人間発達学部附属人間発達研究所の目的の一つに「大学の地域貢献」ということが掲げられています。それに応じた取り組みというのが上の問いかけへの共通の答えですが、その奥にはいくつもの願いがありますし、細かいところまで大学の構成員全員が一致しているわけでもありません。

そこで、今日は、私の見解を書かせていただきます。大学は、人間自身の幸せを目指した地域における知（芸術も含む）の拠点としてこそ、存在意義があります。またそうありたいと日々努力しているのですが、これには地域の支援が不可欠です。ですから大学の地域貢献というよりは大学と地域との共同・協働であり、そのことによって大学自身が発展していくわけです。いわば相互貢献のつながりの展開です。その地域と大学をつなぐ一つの場が、ここ、「にこにこワークショップ」です。ですから参加して下さることが大学の発展に寄与するという社会的な役割を果たして下さっていることになります。保育者や教育者を指す、学生にとっては、実習では見られない親子(生後1、2年の子どもとその親)に接することのできる貴重な場です。研究者にとっても、生きた親子の子育ての場は、人間研究・子ども研究へのヒントの宝庫です。

それだけではありません。すべての人間の幸せを願う知の拠点である大学のキャンパスに幼な子が泣いたり笑ったりしてかかわりつつ、遊び・生活すること自体に大きな意義があります。それは、科学・芸術が誰に依拠し誰のために誰と共にあるものなのかを、常に人間の原点である子どもたちの姿が見直させてくれるからです。ですから、子どもたちには、そして、その子どもの子育てに責任を持っている保護者の方々には、大学の中で大いに、あるがままの姿で、生き生きと子どもらしさ、親子らしさを発揮して下さることを、そしてご一緒にこの小さな場を育てて下さることを願ってやまない次第です。

ところで、このたび皆さんから通信の名前を募集し、最後に一番多く賛意の表された「にこにこ」という名称に決まりました。ですので、僭越ですが、この「子育て・子育てワークショップ」も、とても長くて言いにくいので、通信の名前にちなんで「にこにこワークショップ」(通称)と呼ばせていただきたく、よろしくお願いたします。

そしてその通信の表題のイラストをこの会の会員で絵本作家(名芸大卒)の福井桂子さんにお願いたしました。みなさまもいろいろな点で勝手に帆を上げてくださいますようご提案をお待ちしています。このワークショップを卒業されて、幼稚園・保育園に行かれた後も、どうぞ、遊びの楽しさを地域に広めますとともに、後輩の親子の遊びの場へのご支援をお願いたします。



挿絵 かつらこ

活動報告

大学祭 10月28日(金)
学生主体のワークショップ
開催



大学のお姉さんが絵を描いた、
かわいい紙コップを積み上げる
遊びをしました。

会場は、東キャンパス
1号館 302・303号室
いつもより広い部屋で、ままごと、
ブロック・木製遊具・トンネル
など、いっぱい広げて、ゆったりと
遊ぶことができました。

お姉さんが作ったアンパンマンのボールとペットボトルで作ったピンでボーリングをして遊びました。



会の終わりには、平和戦隊ピースレンジャー
がやってきました。
みんな、びっくりしましたが、一緒に体操を
しました。握手もしました。



パネルシアターも楽しかったです



プレイルームで、自由遊び(子育て・子育てワークショップの日)
☆ まず始めに、すぎなコーナーで遊びます ☆

積み木のコーナー



壁面コーナー 落書き ・ 壁面遊び



製作コーナー



絵本コーナー



ままごとコーナー



木製遊具のコーナー





ミニミニ講座 参加者の声

(原文のまま掲載しています。)

子育てで、やってはいけないこと 加藤 暢夫先生

【その1】 2011年7月7日

- ・テレビをつけている時間が長いので極力消して子どもと会話していきたい。
- ・ためになる話を聞く事ができた。子どもの成長をゆったりとした心を持って見ていきたいと思った。

【その2】 2011年11月30日

- ・子どもが親の顔色を伺うようにして接しているつもりですが、ついつい感情で叱ってしまう。
- ・とてもわかりやすいお話でした。
- ・穏やかな心を育てるには、まず親が落ち着いていなければと改めて思った。
- ・先生のお話で悩む兄妹関係にも、なんとなく光が見えた気が。子どもと一緒に母も成長出来れば良いと思います。

子育てを楽しく ～モンテッソーリに学んでみよう～ 野原 由利子先生

【その1】 2011年9月8日

- ・具体的なおもちゃの作り方など工夫のある遊び方を教えていただきました。
- ・モンテッソーリには興味があったので具体的な遊び道具が見れて良かった。
- ・子どもにたくさんの経験をさせる事が大切だと知った

【その2】 ～教材に触れて～ 2011年10月27日

- ・教材使っているいろいろやらせてみたくなりました。
- ・子どもにとっての必要な日常の遊び方などが解った。
- ・発達に応じた興味のある遊びを改めて意識し、家でも出来るものを挑戦してみたいと思った。
- ・上の子も一緒にやってみようと思った。
- ・時間をつくって子どもにやらせたいと思う。
- ・教材に興味がある。ワークショップ内でもやって欲しい。
- ・子どもに慣れない所があるので母も根気がいると思った。

ヒトの子育て

茶谷 蓮先生

2012年1月11日

- ・サルと人の子育てを比較する事が学べました。
- ・サルとの比較のビデオで笑顔が人間だけのご褒美というのほびつくりしました
- ・寝そぶが悪いのは悪いのかしら?と悩んでいたけど、成長しているからだと聞いてなんだかうれしくなりました。



こちょこちょ大作戦

三輪 弘美先生

【その1】 2011年7月13日

- ・声を出す事が必要であることが分かった。
- ・大きな声で騒げるように促していけたらいいと思った。
- ・子どもにとっても発声が大切なんだと知る。
- ・機会をつくって大声を出させる。
- ・大きい声をたくさん出させて元気に子育てします。

大人と子ども

安部 孝先生

【その1】 ～食べ物～ 2011年11月16日

- ・食事に悩んでいましたが、今日の話を聞いていろいろ試してみたいと思った。
- ・食の事で悩んでいましたが、今日の話を聞く事ができ肩の力が抜けた。
- ・食事は、子どもの思い出になる特別なものになる日をつくってあげようと思った。

【その2】 ～できごと～ 2011年12月8日

- ・食べ物も大切だけど風景も大切だと気付かされた。
- ・「食」について改めて考えさせられた。
- ・雰囲気も大切だし、楽しければたくさん食べられるようになるのではと思った。
- ・食事が大人になってからの思い出になると思う。
- ・楽しい雰囲気を心がける事が大切と思った。
- ・共感できる部分があったので良かった。

発達の節を理解して子どもをとらえる

金田 利子先生

2011年12月1日

- ・子どものみだりに共感する事の大切さを、改めて感じた。
- ・上の子で分かっているつもりでしたが改めて下の子を見ることができ良いお話が開けた。
- ・子どもが話しかけてきたり物を持ってきた時に、話し方言い回し方を少し変えてみようと思った。
- ・イヤイヤ期の「選ばせる方法」や「たとえ」の会話など、とても参考になった。

音の出る物をつくって遊ぼう

古川 美枝子先生

2011年12月14日

- ・楽器づくりに子どもも楽しそうだった
- ・出来上がったら大喜びで鳴らしていました。
- ・親子で作った。出来あがると楽しそうに体を動かして演奏もできた。シール貼りにも集まっていた。



☆お断り☆

- ・「3カ月・3歳・3年生」学部長 佐藤 勝利先生 2012年1月18日に開催いたしました。日程上、次号に掲載させていただきます。

《3年間が過ぎました・みんなでお祝いの会をしましょう》

2009年から始めました子育て支援事業も、2011年(今年度)から、新たに「子育て・子育てワークショップ」と名を変えまして、3年間が経過しました。

初年度に0歳・1歳でこの会に参加して下さったお子さんも、今年度3歳のお誕生日を迎え、4月から幼稚園・保育園での集団生活をスタートさせる方も見えると思います。

この会を巣立っていくお子さんと保護者の方をみんなでお祝いすると同時に、この「子育て・子育てワークショップ」も3年間が過ぎて、初めての巣立ちを見届けることができますことを祝って、特別ワークショップ『歓送会』を下記のように行います。

会に参加しているみなさんでお祝いしましょう。ぜひ、参加してください。

特別ワークショップ『歓送会』

- ・日時： 2月15日 水曜日 10時～12時
- ・場所： シアター室(9号館3階 プレイルームを通り一番奥の部屋)
- ・持ち物： おしぼり・飲み物

*簡単なおやつを用意いたします。

なお、アレルギー等のある方は、ご家庭からご持参ください。

《事務局より》

事務局では、ワークショップが少しでも円滑に展開でき、そして充実感が得られるよう、大学から必要な予算をいただいて、皆さんの子育て・子育てを応援しています。

なかなか家庭では買えない良質の玩具、大学ならではの専門家のお話、活動記録と分析、そして若い学生の参加など、裏方の形で環境整備や人の配置に努めています。このワークショップは、地域への貢献のみならず、学生の学びの場にもなることから、また研究者にとっても、直に接する子どもの姿から思索を深め、課題を見出す場ともなっており、これからも一層力を入れていきたいと考えています。

人間発達研究所運営委員 鈴木岩雄

来年度の予定

2012年度(24年度)の開催につきましては、5月の連休明けに初回を予定しております。詳しくは、後日お知らせいたします。

2011年度の「子育て・子育てワークショップ」で、たくさんのお子さんとお母さんとの出会いが出来ましたことをうれしく思っております。

来年度は呼び名を「にこにこワークショップ」として、より充実させていきたいと思っております。ご協力ありがとうございました。指導員一同より